20210926協議会

ファシリテーター：深井先生

出席者：斧林(4)、大西(4)、大石(4)、榊原(2)、天野(山梨中央銀行)、千明(3)

記録：風間、金子、西山

中間MTGまとめ

GOAL：

長期的目標：

中期的目標：

短期的目標：

次までにやること：

この班（空き家・空き地・住宅問題）が協議会全体の中で担う役割とは？

ベンチには使えなそうだけど、協力してくれそうな人がいる

ゴミ箱問題解決・空間活用ですかいか

安藤

※協議会で何でもかんでもやろうとしない

ざまざまなことをやろうとした場合、法人としてやる必要がある。町会ベースでは負担大。

大きなことは協議会では手に余るので、自治体にしっかりやってもらうように働きかける

空間ポテンシャル

できること

- ベンチ置ける場所
  - 高齢者の買い物ルート
    - 利用した商務者が自分でもお店たくなる？
  - ゴミ集積所解決まとめる
  - 空き家空き地
  - ベンチは置けないけど場所的な人
  - 活用策
    - キッカケとして
- ベンチ活動
  - 1回で作成

大西　斧林？

東　広報的な要検で情報をまとめる（ベンチ）

小林　各班毎で話し合ってはも、ベンチ作ってやるケース、問題解決しようとするケース、自治会活動やアクセンをなどこっていく。

事例収集・広報的なもの

大西四　空き家空き地の活用を図るために、場所（活用できる場所・活動したい人・活動してる事例）の洗出しをして、場所と人の調査し、そしてそれの活用プロジェクトを組呼んでいく感覚

風間

- 空き家・空き地活用のアイデアの洗出しをる：活用事例・決まっていない物件に対してエンプラ、ティングできる。

風間

- 空き家・空き地の活用の情報発信：どこでどのように活用されているのか、イベントがあるのか、外の人へのアピールも踏まえて、内部のメンバーがSNSなどでやできるのでは

事例をまとめていく。発信していくことが最初のステップ

李　今やできることとして、空き家の情報収集や活用事例などPRすることが最初のタスク

李　空き家を活用することになったら、協議会全体として動かなければ難しい

活用規制では全体で再提出しい

安藤　京ロなどは負担大。誰が担うのか。世代交代をどのように担保するか。

東大チームなど継続して担い手がいる仕組みづくり

何かあった時に相談する仕組みなど

深井　他の班でやりたいことを、どこでできるかなどの情報提供

活用した時に情報共有

情報の共有方法案

広報資料作ろ → 問い合わせ先 → メーリングリスト（活用時など）

空き家・空き地

空き家・空き地がもたらす成果

千明(3)　他の班でやっていることを踏まえた情報提供などではなく、空き地空き家がもたらすなどなどという結論的な提案をよいが。

地所に対した具体的な提案（セリカケース）

- さまざまなアイデア
- 実現するためには？
- 実現までハードルがある

金子　事例の紹介をするためには同じような事例が必要かで、非効率に陥り易さる必要がある。この班でけりることである。

中村（一）　他全体で空き家・空き地を把握しておく必要がある

空き家・空き地の管理などの活動がなくてくることも想定されるので、そのような活動

中村（二）

【問題点】

アンケートでで空き家空き地について、なんとかしなければ

→空き家空き地の活用について、事例をまとめる

→やりやすいものとして、まちなかベンチ

2個で出た空き家のデータベースの案

活用したいと思った場所が提供されるケースが

→探す気も考えもないものが残っているので、オーナーを口説く材料が必要

3丁目で活用したいと思っていた場所を、役所を通じてオーナーに連絡したが、すでに解体え

活用する上ではオーナーを口説く点が課題になる

空き家問題

→民正面からいくと危険 → 近所で直接やるとトラブルの種 → 自治体・専門機関から行った方がよい

情報の再整理

大石(四)　過去のアンケート結果から見える（空き地空き家がもたらす心配事）を中心に課題を再整理し、解決事例（予防策を含む）をまとめて提案する

地域に寄与しない空き家 → 実態は？ → チームで洗いてみる

空き家・空き地の定量的な把握が必要（李）

活用に困っている方の調査やヒアリング

中川　議論の再整理：

議論が成果に結びついていないジレンマ → ケーススタディとして具体的に考えてみる（活用事例を参照して） → 抽象的な話だけではなく形にしていくことで形に表えるようにする

大石(四)　現実の中には地所に関係あるものも含まれると思いますが、実態手前までであれば、極論に活動しても問題ないと思います。

立ち位置の整理、振り返り

榊原(二)　めじろ台居住者は、個人の役割は実直に実行していますが、町会でどのように動くのか？協議会でどのように動くのか？明確になっていないので活動が広がっていかない現状です。個から集団への広げ方を明確にしていく必要があります。

空き地空き家情報を誰が更新していくのかここをしっかり決めていく必要があると思います。

小林（東大）　誰に対して活動するか：持ち主・活用する人・将来住むであろう若い世代

- 持ち主：資産の魅力的な活用事例を提示
- 活用する人：使い方、運用方法などを専門家に聞く
- 将来住みたい人：情報を手にとれるようにする（情報公開システムをつくる）

安藤(四)　テーマが明光になるので、できることに注力

相談

相談内容

- 予防
  - セミナー
- 整理
- 利活用
  - 情報をまとめる

課題

まとめ	活用事例情報収集／情報共有
	・モデルケースで活用事例考える（現地で）
	各班のつなぎ役として情報整理
方法	活用事例の整理 →場所の提案
	モデルケース：どこを敷地にするか？（寄宿舎のスタディ案：コロナ前に大月研でやっていた）
	では，どこでどんなモデルを？
課題	協議会として、活用したい人の窓口になるのか、自らアクティビティをやっていくのか、方針を考える
	誰かの家が空き家になった場合といった形で考える → 終活で出てきたお宅

空家空地マップは、はたして必要なのか?

地域資源の可視化は進めたい

必要では

大西
めじろ台全体で活用できる場が、一目でわかるようなマップはあった方がいいと思う。少なくとも、担内で資源無駄の年毎を支るツールとしては最適かと思う。町会保管の空き家空き地マップこは別物がよい。

安藤
空き家・空き地マップ：やっていること／やったことマップ
マップ作り（目に見える成果）はモチベーションにつながる／さまざまな人への興味に繋がる

大石
空き地空き家については、めじろ台町内における実態について共通認識を形成する必要があり、その過程で集約・整理されたものが自然に作成されると思います。

マップにこだわらない方が良いと思います。

空きスペース活用を目的としたマップについては、（報事実施者ではなく）マップ作製・維持費のモチベーションが良く見えません。

小林（東大）
めじろ台での活用事例マップ：これから事例作りとともに

小林（東大）
牧地域での成功事例マップ：どのような地域でどのようなことがされているか

斧林
空き家・空き地ではなく活用事例のマップは必要

中川
地域資源図を作ってみることには意味がある
：空き地・利活用できるお宅など

中村（一）
測量するためにマップは必要（デジタルデータではなく、白地図にメモするなどで要要）
利用のマップについてはオンラインでも構わないのでは。

東
広報的な意味で、どこで何をしている／何があるかの情報をまとめる

李
空き家・空き地マップは目的ではなく手段
各自のなっる知で、（ここをやりたい）という実現に対して、物流や資料を提案して、オーナーへの連絡の手助けを
行はするメリットは、不動産取引に対でいないのをみることができる。
自治にならない程度で作成まで手は出ないと思う。

小林
ページ設置でシェアもやっていきたい

金子
空き家・空き地マップは目的ではなく手段
：公開の仕方等検討の
情報管理の観点から出来ると良いと思う。
ちゃっと思う。

李
【今安住では、空き家マップのセキュリティ】
電子データは担当者一人で管理（4のサイズ以上）。必要が生じた時限りで活用毎年5、6個作成して、ナンバリング管理
1～7丁目まで、7名ずつ2ずつまとめる形で作成

データベースは不要

町会の地図

安藤
出来上がっている町会は良いが、できあがっていない町会については、作成補助

小林（東大）
空き家・空き地マップ：自町会で

中川
データベースは町会でやっているのであれば必要ない

中村（一）
3丁目にある個別のデータが何十台だが、利用や更新しやいのは地方向に難しいので2～自治会で作ったマップを検証してもらうことの検討

中村（別）
（北部の事例）
データベースを作ったが、公開してしまったことがあった
→データベース化の提言

深井
空き家・空き地マップ：町会ごとに温度差？がるように見受けられる

4丁目：現役者・空き家・空き地を毎年更新、入会・退会を把握しているはずだが、漏れがあるから。
3丁目：山岸さんが作成したものが活用？町会というよりは協議会としてやった。駐車場、空き家の管理機能などまで。

→労力がかかりすぎていた個人に頼らないでできるような仕組みが必要では？

その他

納原
携帯する目的を明確にする必要があります。携帯で使用するのか？コミュニケーション取で使用するのか？空き家の連動、普通利用者の問合わせ窓口と空き家のたれと使用するのか？利用に向けていく必要があります。

千明
専門に詳しい技術。

東
広報的な意味で、どこで何をしている／何があるかの情報をまとめる

周間
活用事例が蓄積されてきたら必要になるので
は
まずは事例

まとめ
・一歩目はイベントとして作る→地域の情報をまとめたマップ（現地で？）
・必要が出てきたら空き地・空き家マップまで検討

方法
マップ：どのように作っていくか？
・白地図を貼っておいて書き込んでもらうなど（オンラインで）
・集まってやる

課題

20210926協議会 4+6班

ファシリテーター：深井

出席者：斧林(4)、大西(4)、大石(4)、榊原(2)、天野(山梨中央銀行)、千明(3)

記録：風間、金子、西山

中間ミーティングにて、班の役割を以下のようにまとめた
① 活用事例情報収集/情報共有
② 活用事例を考えモデルケースをつくる
③ 各班のつなぎ役として情報整理
➡今日は**「モデルケースのための実際の活用」**について考える

どこをモデルケースとして使えるか

- 空き地
  - 利活用できそうな空間
    - 大石
      空きスペースの活用：
      → 商店街間の商店の間
      → 第二金庫のスペース
      → バイロットケースとしては活用可能
      - 空き家空き地の利活用の最終的な目標は？（大石）
    - 荒れた空き地に手入れをしたい
      - 町会で手入れできるように
        - コミュニティビジネス 町定・管理
        - 所定；あんしんネットで安価で
        - 空き家見守りビジネス（セコムなど）
  - 手入れが必要な空間
    - 千明
      - 道路にはみだしている木枝・庭がある
      - 独居や高齢者で手入れが行き届っていない
      → お庭の整理が必要
      → お庭の手入れ方法を方法がボランティアで集められる？
      - ボランティアを集める？
      - 2、3年で1、2軒
    - ある日突然住まなくなったら荒れてしまう
      - 本格活用には、図面等も必要となる
- 空き家
  - 問題は？必要性は？
- 貸し庭
  - オープンガーデン
    - 斧林
      バラのオープンガーデン
      5月いっぱいが見ごろ
      ※周辺住民への配慮が課題
      → 2022年5月に実施？
    - 榊原
      住民の庭先などを利用
      クリスマス時期の
      イルミネーション
    - 大西
      実際に活用したこともある
      庭先提供できる
  - 空き家空き地以外に使える空間
    - 会館前の空間
    - 4丁目に駐車場付きの建物
  - 空き家・空き地の定義的な把握が必要（李）
    - 活用に困っている方の調査やヒアリング

モデルケースでの空き家空き地活用の議論

どの家を使えるか、からスタートする
・オーナーさんの協力が不可欠なため
・問題りなどのそれぞれの事情に強く依存するため

李
めじろ台の仮想の住宅でTRY

問題

空き地・空き家に関する懸念点

- 4丁目
  - 斧林
    空き家空き地の多くは新築が建ったりと流通ルートにのっていたりする
  - 斧林
    問題のある空き家・空き地はほとんどない
  - 大石
    代替わりしない一定数あるが、定期的に管理されている
- 3丁目
  - 千明
    3丁目全体としては大きな問題はない
  - 千明
    1件どうしようもない空き家がある
- 2丁目
  - 榊原
    多くの敷地には新築が建っている
  - 榊原
    問題になっているところは2,3件。
    → ほったらかしになっている。
    → お庭の整理などが必要

空き地空き家の現況

課題解決のため出来ること

- 千明
  問題のある空き地は地主と連絡して対策が必要
- 榊原
  人がいなくなったと思うと、急に家が朽ちていくことがあり、代替わりしても管理されるのかということが重要。
- 榊原
  ご近所づきあいがあればゴーストタウン化しない。
  → 住民ネットワークで、管理されなくなる物件を減らす必要がある

ほか・課題

- 大石
  庭の手入れが行き届いていないお宅が地域の景観を害することがあり、対策が必要
  → 3丁目も同様のお宅がある

現地視察の必要性

→ 来月には実施.
コロナの状況を鑑みて日程は調整

4,6班の中長期的なゴールは何か？

- 大石
  問題を解決する（ほどよい景観を維持する）ことが目的ではないか。
  他班と異なり発展を目指すわけではないのではないか。

長期ゴール（目指す姿）

- 斧林
  「端正に整った街」を維持する
- 榊原
  空き家空き地があっても魅力あるまち
- 天野
  若い世代が増える中で「活気ある街」を維持することが必要

中期ゴール（すべきこと）

- 情報収拾
  - 千明
    各物件に対する具体的な提案や活用方法を提示できると良い
  - 斧林
    空き家空き地の情報 / MAPは町会で把握する必要がある
  - 榊原
    町会として空き家・空き地の情報を常に新鮮に保つこと、更新していくこと
- 情報提供
  - 大石
    情報収拾の円滑化を促すフォーマットや活用事例を整理 → 各町会へ提供
    ここまでが4,6班の役割
  - 天野
    空き家・空き地を活用するための情報提供を行う
  - 大西
    活用のための事例の提供を行う
- 組織体制を整備
  - 千明
    空き家・空き地の活用を行う組織体制を整える
- 4,6班主催の活動
  - 斧林
    かつての取り組みのように、「お掃除の日」を設定してみてはどうか

短期ゴール（今できること）

- 大石：短期目標
  ・共通認識が持てるようにフィールドに出て調査・視察
- 大石：短期目標
  ・フィールドワークに行く場所の選定.
  物件の情報を事前に集めてリスト化し、検討
- 大西
  現地視察やヒアリングを通して空き家・空き地の実態調査を行う